



小平・生活者ネットワーク

ニュース NO. 123 2014年11月1日発行

活かそう！ 市民の力

小平・生活者ネットワークは2015年春に行われる統一地方選挙、小平市議会議員選挙に日向みさ子(3期目)、平野ひろみ(3期目)、さとう悦子(新人)、3人の擁立を決定しました。



小平・生活者ネットワーク
政策委員長

さとう悦子
えつこ

子どもの未来を 拓くために

小学生のとき水俣病のことを知りました。「大きくなれないよ」と魚を食べさせたという、ある母親の後悔のエピソードが今でも心に突き刺さっています。東日本大震災の原発事故でわかったのは安全だと言われていたものが安全でなかったということ。一番怖いのは、有害な物質が目に見えなくて、私たちにはわからないということです。いのちをつないでいくことすら危ぶまれるようなこの状況は、今を生きる大人全体の責任だと思えます。

豊かな緑と元気に遊ぶ子どもの姿が多くみられるところ、市民活動が盛んなところ——そんな小平を私はとても素敵なまちだと思っています。

小平の農地や緑を大切に、地場の農産物の活用を広げ、いのちの大切さが実感できるまちをつくっていきます。



小平市議会議員

平野ひろみ
ひろの

小平を 支えあう福祉のまちに

市議になってからの6年間、これまで、自分が経験した介護の現場から見える様々な課題を改善するため、議会で声をあげてきました。

地方分権の流れを受け、自治体の実態をふまえてすすめていくべきことが多くなり、福祉のまちづくりを具体的なかたちにつくっていかねばならないと日々感じています。

子ども、高齢者、障がい者を社会全体で支えるためには、当事者、介護者や福祉現場の声を活かしていくこと、市民と行政の協働する力を高めていくこと、縦割りではなく、役所内の横のつながりをつくっていくことが必要です。

精神の病も含めた地域医療と介護支援のネットワークを広げながら、市民の暮らしを豊かにするための地域のパイプ役として、3期目に挑戦します。



小平市議会議員

日向みさ子
ひなた

市民が主役の まちづくりを！

東日本大震災直後から4年、私の市議2期目はあっという間に過ぎようとしています。原発事故を受けて小平での放射能対策への取り組みから始まり、脱原発に向けての都民投票運動や地域エネルギーの創出、共働き世帯の増加と超高齢化に対応した保育や介護施策の提案、都市計画道路をめぐっての請願や住民投票、そして市民にひらかれた議会をつくるための議会改革……。その他さまざまな地域活動、議会活動を通して多くの人とつながり語り合った4年間でした。

政治の中で一番力をもつのは市民です。その市民の力を活かし、緑あふれる住みよい小平を次世代に手渡すつなぎ役として、議会でやるべき仕事はまだたくさんあると感じています。来年4月の市議会議員選挙では3期目にチャレンジします。



小平・生活者ネットワーク
2015 政策発表集会

2014年12月7日(日)
小平市福祉会館・小ホール
午後2時～ (開場1時30分)

基調講演：汐見稔幸さん(白梅学園大学 学長)
子どもたちをまんやかに、高齢者も障がい者も、
みんなであらって暮らすまち(仮題)